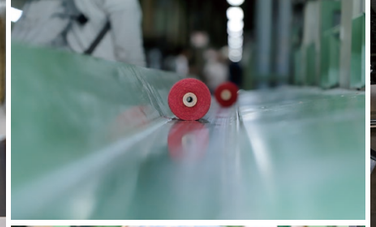


2. *Peek in factory*

紡いできた、技術と伝統

織る weave

「織る」という作業は、「経糸（たていと）」に「緯糸（よこいと）」を通すことで、生地にしていく作業をいいます。

パイル織物の場合は、その経糸と緯糸で布地が作られるところに、さらに「パイル糸」を垂直に通し、織り出すことで、毛（パイル）が出た生地が生成されます。

下の写真のような複雑な模様は、機械の上にある「紋紙（もんがみ）」によって作り上げられています。

紋紙は、模様の設計図のようなもので、右の織機の上部に設置されています。連なった板の一枚一枚に、小さい穴がたくさん空いており、この穴を読み取って経糸を上下させることで、複雑な模様を描けるようになっています。

染める dyeing

「染める」という工程には、大きく分けて、「糸染め」と「生地染め」の2種類があります。

糸染めは、生地を織る前に糸を染めることで、糸の内部まで染色できるため、色落ちがしにくく、深みのある色が出ます。

生地染めは、「織る」過程を経てから染めることをいいます。一度にたくさんの生地を染めることができるのが特徴です。

また、プリント（捺染（なっせん））と呼ばれるものもあり、彫刻された金属のロールに染料をつけ、生地を押し当てるようにして染色する仕組みです。

加工する manufacture

出来上がった織物は、最終的に「仕上げ加工」を行う必要があります。仕上げ加工の工程には、テンター・毛割り・ポリッシャー・シャーリングがあります。

テンターとは、出来上がった生地を乾燥させたり、仕上幅を整えたりすることで、加工のための準備を行う作業です。

テンターを終えると次は、毛割り作業に入ります。パイル生地は、テンター直後の状態だとパイル（毛）が絡まっていたり、束になっていたりするため、その束を機械を使って割っていくことで、パイル一本一本が立ち、手触りがよくなります。

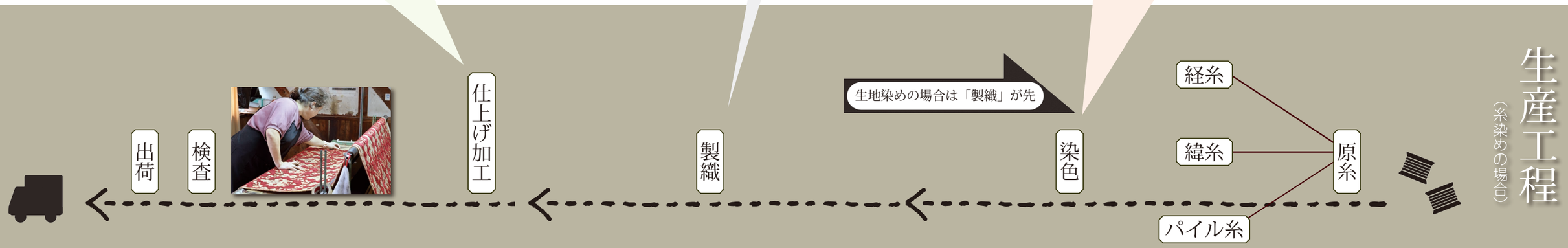
毛割りを終えると、次はポリッシャーです。ポリッシャーは毛にアイロンをかける要領で、生地に熱を加え、手触りを良くし、さらに独特のツヤや光沢を出します。

最後に、シャーリングの作業です。シャーリング作業は、これまでの加工を終えたパイル生地の毛を切り揃える作業です。この作業を行う事で、均一な毛の長さとなります。

ポリッシャー

テンター

シャーリング

毛割り

生産工程（糸染めの場合）